

ブラジル産ハスアボカドに日本が市場を開放

[FreshFruitPortal](#) 2024年9月9日

ブラジルのアボカド産業は、市場を征服し続けている。今年これまでにコスタリカへの参入を果たし、現在、日本がこの南米の主要産地で生産されたハス品種を歓迎している。

ブラジル政府と国内の業界は、日本政府がこの果実の送付を公式に承認したことを満足で受け止めた。ブラジル農牧省と外務省は共同コミュニケで、「アボカド輸出の承認は、ブラジルのアグリビジネスに新たなチャンスを開くと同時に、世界で最も要求の厳しい市場の1つである日本市場への果実の供給を多様化するものである」としている。ブラジル果実・果実加工品生産者輸出業者協会 (Abrafrutas) も、果実セクターにとって重要なこのニュースを祝福した。

同協会は、ブラジルの輸出業者が遵守すべき一連の要件を日本が設定したと説明した。その中には、品質の高い果実のみが送られるよう、日本の検査官が毎年訪問し、輸出される果実の収穫・梱包施設を認証することが含まれている。

ブラジルは世界最大のアボカド生産国の1つであり、2022年の生産量は33万8千トンを超えている。アボカドは主に、気候と土壌がハス種、ブレダ種等の生育に適したサンパウロ州、ミナスジェライス州、パラナ州、エスピリトサント州及びセアラ州で栽培されており、国際市場で高く評価されている。

ブラジルのハスアボカド輸出は近年大幅に増加しており、2023年の輸出量は前年比9.72%増の2万3千トンに達したと同協会は強調する。主な輸出先はアルゼンチン、ボリビア、フランス、ウルグアイ等のほか、ヨーロッパ諸国 (特にスペイン、オランダ、英国) である。

同協会はまた、日本が世界最大の生鮮果実輸入国の1つであり、アボカドは栄養が豊富で料理の用途が広いスーパーフードとしての人気により消費量が近年急速に伸びていることから、日本市場がブラジル産アボカドにとって有望な機会を提供することを強調した。

同協会のギリエルメ・コエーリョ会長は、「この市場開放は、官民両部門による多くの共同作業と対話の成果である。我々にとっては、その独特の品質と風味が認知されているアボカドで、日本人の味覚を虜にする絶好の機会である。日本の厳格な植物検疫基準を継続的に遵守して、この扉をブラジルに開放し続けることは、今や我々次第である」と述べた。日本はアジア最大のアボカド輸入国である。 (参考: [植物検疫実施細則](#))

米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-35](#) 2024年9月10日 (11日送信)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病 (HLB) 検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局 (APHIS) は、カリフォルニア州食品農業局 (CDFA) と協力して、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病 (黄龍病; HLB) の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、ロサンゼルス郡、オレンジ郡、リバーサイド郡の約50平方マイルである。APHISはまた、ベンチュラ郡の検疫エリアを約0.7平方マイル拡大する。APHISは、ロサンゼルス郡、オレンジ郡、リバーサイド郡及びベンチュラ郡の住宅地から収集された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大措置の影響を受ける商業的な柑橘類はない。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年8月1日、8月5日及び8月22日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おっってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)